

つながり育む三軒長屋



三軒長屋の真ん中の家でサロンを営む寺坂さん(右)
—金沢市三社町



通りを歩く人の声、郵便配達や、風で揺れる窓の音。生活が奏でる何げない音が心地いいと、足を運んでくれるお客さんが少なくないという。

セラピスト 寺坂美紀さん(43)

金沢市三社町に建つ、昭和初期築の「三軒長屋」。その真ん中の家でアロマサロンを営む寺坂美紀さん(43)が穏やかに語る。

「昨年、春、市中心街の商業ビルから、改修を終えたばかりのこの長屋に移転した。古い家には抵抗がない。七尾の市街地にある実家も、年代物の木造建築である。何より町家の落ち着いた雰囲気、身も心もほぐすアロマのイメージにすっかりきたのだ。」

「まちなかの利便性、管理されたビルの快適さは確かに強みだった。『町家で開業するの?』と一番驚いていたのは、ビル時代の常連さんだったかも」

「しれません」と苦笑する。心身の健康は「ついで」にしてほしい。そんな思いから、少し郊外で町家を探し、やっと出合った物件だった。

懐かしいけれど、新しい。木と畳、土壁の温かみのある町家は、思った通り好評だった。自然光が入り、夏は暑くて、冬は寒い。それを当たり前に感じられる建物を「懐かしい」、若い世代は「新鮮だ」と魅力に感じてくれる。「ここに来てから、以前より長い時間過ごされる方が増えたんですよ」。寺坂さんが満足そうに話した。

三軒長屋の両隣には、いずれも個人事業主の女性が入居する。表で会えばあいさつを交わし、近所で暮らす大家さんからは野菜を頂くこともある。一戸建て同様、プライバシーは保たれながらも、集合住宅にはない「向こう三軒両隣」の心地よいつながりが気に入っている。

金沢駅に近い土地柄、観光中の外国人がふらりと訪ねてくることもある。「アロマの本場である欧米のお客さんに、町家のサロンで、能登ヒバなど日本精油を提案したい」と寺坂さん。長屋から聞こえる暮らしの音に、外国語が加わる日も近いかもしれない。

川上光彦金大名誉教授

識者の



三軒長屋の特徴を生かし、女性入居者用、職住併用のコンセプトで、空き町家の改修と活用がなされている好例だ。自然材と伝統工法が使われているのも人にやさしい。まちなかに若い世代が入ることによって、新しくコミュニティが育つ。このような事例が増えることを期待したい。

◇次回は10月8日です。